

(別紙)

障害福祉分野のロボット等導入支援事業(令和5年度補正予算分)
(施設等に対する導入支援分) 事業報告書

※導入機器ごとの効果や目的等を把握するため、導入機器ごとにそれぞれ作成をしてください。(一体的に利用している機器を除く)

自治体名 福井県

【基本情報】

フリガナ	シャカイフクシホウジン コウドウエン
法人名	社会福祉法人 光道園
フリガナ	ライトホープセンター
事業所名	ライトホープセンター
施設・事業所種別(指定を複数受けている場合は、補助上限額を適用する施設・事業所を選択)	
障害者支援施設	
職員数(常勤換算数)【「従事者の1ヶ月の勤務時間」÷「事業所等が定めている、常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数 × 4(週)」にて算出(産休・育休、休職は除く)】	
65.2 人	

(1)主な導入機器内容(種別・機器名等)

機器の種別: ☒ 移乗介護 ☐ 排泄支援 ☐ 入浴支援
☐ 移動支援 ☐ 見守り・コミュニケーション

機器名(導入台数)	Hug 1台
-----------	--------

(2)ロボット機器等導入前の定量的指標及びロボット機器等導入後の定量的指標

① ロボット機器等導入前の業務時間内訳

業務内容		A.業務従事者数	発生件数		D. 1件当たりの 平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり 業務時間 (C×D÷A)
			B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換	3 人	12 件	144 件	15 分	108 人時間	12 時間
	2 排泄介助・支援	3 人	90 件	1,080 件	20 分	1,080 人時間	120 時間
	3 生活自立支援(※1)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	4 行動上の問題への対応(※2)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	5 その他の直接介護			0 件		0 人時間	#DIV/0!
間接業務	6 巡回・移動	3 人	12 件	144 件	10 分	72 人時間	8 時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)	3 人	102 件	1,224 件	5 分	306 人時間	34 時間
	8 見守り機器の使用・確認			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	9 その他の間接業務			0 件		0 人時間	#DIV/0!
			216 件	2,592 件	50 分	1,566 人時間	#DIV/0!

※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援

※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

以下の※1及び※2については、ロボット機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

＜※1＞B. ひと月当たり発生件数の算出方法

現在寝たきりの重度の利用者は1人おり、トイレなどの移乗に3人の職員があたっている。排尿支援は1日3回(日中午前1回、午後2回)。入浴支援は月水金の週3回。

＜※2＞D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

寝たきり重度の利用者に対して、排尿支援の時間が20分。入浴支援はお風呂場への移動に15分。館内の巡視に1回に約10分。パソコン等への記録の打ち込みに5分。

② ロボット機器等導入後の業務時間内訳

業務内容		A.業務従事者数	発生件数		D. 1件当たりの 平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり 業務時間 (C×D÷A)
			B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換	2 人	12 件	144 件	15 分	72 人時間	18 時間
	2 排泄介助・支援	2 人	90 件	1,080 件	20 分	720 人時間	180 時間
	3 生活自立支援(※1)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	4 行動上の問題への対応(※2)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	5 その他の直接介護			0 件		0 人時間	#DIV/0!
間接業務	6 巡回・移動	2 人	12 件	144 件	10 分	48 人時間	12 時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)	1 人	102 件	1,224 件	5 分	102 人時間	102 時間
	8 見守り機器の使用・確認			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	9 その他の間接業務			0 件		0 人時間	#DIV/0!
			216 件	2,592 件	50 分	942 人時間	#DIV/0!

以下の※3及び※4については、ロボット機器等導入後の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

＜※3＞B. ひと月当たり発生件数の算出方法

現在寝たきりの重度の利用者は1人おり、トイレなどの移乗に以前は3人の職員があたっていたが、介護ロボットの導入により、2人の介助となり、1名の職員を削減している。排尿支援は1日3回(日中午前1回、午後2回)。入浴支援は月水金の週3回。
--

＜※4＞D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

寝たきり重度の利用者に対して、以前と同様の排尿支援の時間が20分。入浴支援はお風呂場への移動に15分。館内の巡視に1回に約10分。パソコン等への記録の打ち込みに5分。

年間業務時間数想定削減率(%)

39.8%

(3)削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

寝たきりの重度の利用者には、職員が3人での介助が必要であったが、介護ロボットの導入により、職員の介助が3人から1人に減らせたことにより、削減率が大きかった。

(4)ロボット機器等の導入により得られた効果

寝たきりの重度の利用者への介助の支援は、3人の職員であっていたが、2名の支援と1名の職員を削減することができた。

(5)今後の課題

課題としては、介護ロボットの使用には、正しい使用をしないと事故につながる恐れがある。今後も職員への介護ロボットの正しい使用方法を知ってもらうための内部研修が必要である。

(6)気づき等について

以前は、職員が力任せに移乗などをする場面もあり、利用者がつらい顔をする場面もあったが、介護ロボットの使用で利用者への負担も少なくなり、移乗時に笑顔も見られるようになってきた。

(7)費用面での効果(ロボット機器等の導入による費用の削減の有無を必ず選択すること。)

ロボット機器等の導入による費用の削減	有
--------------------	---

ロボット機器等の導入による費用の削減が「有」の場合、以下を回答すること。

削減額(円／月)	
職員の賃上げ等への充当	無
その他職場環境の改善への充当(※1)	有
サービスの質の向上に係る取組への充当(※2)	無

(※1)その他職場環境の改善の具体的な内容について記載すること。

介護ロボットを使用することにより、職員が介助時に持ち上げるなどの腰に負荷がかかる支援であったが、腰への負担軽減により、職員の腰痛削減への効果もあった。

(※2)サービスの質の向上に係る取組の具体的な内容について記載すること。